

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究

HIV 検査機関における MSM の受検動向

研究協力者:岳中美江（特定非営利活動法人 CHARM/エイズ予防財団）、
市川誠一（名古屋市立大学）

研究要旨

MSM への予防介入による効果を受検行動の側面から評価するため、検査機関（大阪・土曜日常設 HIV 検査事業）と共同で調査を実施した。

質問紙調査の協力者 1880 人のうち、同性間性的接触を感染不安要因として受検した男性（以下 MSM）は 373 人であった。HIV 検査結果陽性と判定された 20 人はすべて MSM で、質問紙調査の回答率から推定した MSM 受検者中の陽性者割合は 4.7% であった。アンケート回答が得られた MSM370 人のうち、TPHA 陽性結果と判定されたのは 9.5% であった。クラミジア抗体検査を受け、かつアンケート回答が得られた MSM368 人のうち、IgG 陽性結果と判定されたのは 10.3% であった。

MSM 以外の受検者の 7 割がインターネットにて当検査機関を知ったのに比べ、MSM 受検者はインターネット以外からも情報を得ていた。特に MASH 大阪の啓発資材等が検査相談についての情報源になっていることが示唆される。MSM 受検者の HIV 受検経験率や相談利用経験率は MSM 以外の受検者よりも高く、心配なことがあってから比較的早い時期または定期的に、自身の感染リスクを意識して具体的な動機をもとに検査相談を利用している傾向にあると考えられる。

これらのことや MSM 受検者中の陽性割合を鑑みると、この検査機関は関西地域の MSM に対して早期検査、医療機関や相談支援へのアクセスのひとつの機会となっていると考えられる。また、過去 6 か月間のanal sexにおけるコンドーム常用率は昨年の 36% と比べて高率になっており、今後の動向を継続して観察する。

A. 研究目的

MSM への予防介入による効果を受検行動の側面から評価するため、検査機関（大阪・土曜日常設 HIV 検査事業）と共同で調査を実施した。大阪・土曜日常設 HIV 検査は、特定非営利活動法人 CHARM が大阪府・大阪市から委託を受け、毎週土曜日午後に大阪市北区堂山で HIV や性感染症検査を無料匿名で実施しているものである。MSM の一定の利用があるこの検査機関における受検者動向の把握は、MASH 大阪の啓発対象層の HIV/性感染症の感染状況や予防行動を知る上で有効である。

B. 研究方法

無記名自記式質問紙を受検者全員に配布し、採血日行程終了時に任意に記入してもらった。2006 年 1 月～12 月の受検者総数 2126 名のうち質問紙回答に協力が得られたのは 1880 名（有効回答率 88.4%）であった。

C. 研究結果

質問紙調査の協力者 1880 人のうち、同性間性的接触を感染不安要因として受検した男性（以下 MSM）は 373 人であった。HIV 検査結果陽性と判定された 20 人はすべて MSM で、質問紙調査の回答率から推定した MSM 受検者中の陽性者割合は 4.7% であった。アンケート回答が得られた MSM370 人のうち、TPHA 陽性結果と判定されたのは 9.5% であった。クラミジア抗体検査を受け、かつアンケート回答が得られた MSM368 人のうち、IgG 陽性結果と判定されたのは 10.3% であった。

陽性者割合は 4.7% であった。陽性結果を受け取った全員に HIV 診療拠点病院を紹介しており、紹介医療機関からの受診回答書の返信状況は 75% である。また、梅毒検査を受け、かつアンケート回答が得られた MSM370 人のうち、TPHA 陽性結果と判定されたのは 9.5% であった。クラミジア抗体検査を受け、かつアンケート回答が得られた MSM368 人のうち、IgG 陽性結果と判定されたのは 10.3% であった。

MSM および MSM 以外の受検者の年齢分布、居住地を別表 1 に示した。年齢分布をみると、MSM、MSM 以外の受検者ともに 20 歳後半が最多、次いで 30 歳前半、20 歳前半であるが、MSM 受検者では分布にはばらつきがみられる。居住地をみると、MSM 受検者の 68% は大阪、次いで兵庫であり、近畿全域からの利用がある。この検査機関を知った情報源（複数回答）として（別表 2）、インターネット利用が MSM 受検者の 53%、MSM 以外受検者の 69% と最も高い割合になっている。MSM 受検者では、MSM 以外の受検者に比べてインターネット以外からも情報を得ている傾向があり、インターネットに次いで友人・恋人 23%、ポスター・パンフレット・広報誌 17% であった。また、飲食店・飲み屋 2% で情報を得ている MSM もおり、MASH 大阪や DISTA、SAL+ という記載もあった。

感染を心配する行為から受検までの期間は（別表 2）、MSM 受検者の 93% が 1 年以内であり、MSM 以外の受検者よりも短期間のうちに受検している傾向がある。MSM 受検者の HIV 検査受検率は、これまで（生涯）72%、および過去 1 年間 46% と、MSM 以外の受検者の受検率に比べて高かった（別表 2）。MSM 受検者は受検動機について、「情報に触れ自分のことでも心配」が MSM 以外の受検者よりも低率であり、「定期的に受けている」「パートナーの感染がわかった」「自分にも感染の可能性がある」が MSM 以外の受検者に比べて高率であつ

た。また、自身の HIV 感染可能性について、MSM 受検者の 36% が「可能性があると思う」としており、MSM 以外の受検者 22% に比べて高率であった。一方、「まったくないと思う」および「あまりないと思う」としたのは、MSM 受検者の 16%、MSM 以外受検者の 29% であった。なお、HIV 関連の相談をした経験についてみると（別表 2）、MSM 受検者の 25% は検査時に相談した経験があり、MSM 以外の受検者よりも高い割合であった。

性行動についてみると（別表 3）、MSM 受検者の過去 6 ヶ月の性交経験率は 88% で、その相手（複数回答）は、恋人など特定のパートナー 50%、知人・友人 37%、バー・クラブで知り合った相手 29%、ネット出会い系で知り合った相手 28%、携帯出会い系で知り合った相手 14% であった。また、過去 6 ヶ月間のセックスにおけるコンドーム常用率は、オーラルセックスでは 10%、ナルセックスでは 51% であった。

D. 考察

質問紙調査の協力者全体のうち MSM 受検者は 20% を占めていた。昨年と比べて、MSM 受検者の年齢が高めの分布になっていた。MSM 以外の受検者の 7 割がインターネットにて当検査機関を知ったのに比べ、MSM 受検者はインターネット以外からも情報を得ていることがわかった。特に MASH 大阪の啓発資材等が検査相談についての情報源になっていることが示唆される。MSM 受検者の HIV 受検経験率や相談利用経験率は MSM 以外の受検者よりも高く、心配なことがあってから比較的早い時期または定期的に、自身の感染リスクを意識して具体的な動機をもとに検査相談を利用している傾向にあると考えられる。これらのことや MSM 受検者中の陽性割合を鑑みると、この検査機関は関西地域の MSM に対して早期検査、医療機関や相談支援へのアクセスのひとつの機会となっていると考えられる。また、過去

6か月間のナルセックスにおけるコンドーム常用率は昨年の36%と比べて高率になっており、今後も動向を把握していく必要がある。

E. 結語

MSM受検者の動向を把握するため大阪・土曜日常設HIV検査事業において調査を実施した。MSM受検者の陽性割合や受検・予防行動の一部が明らかになり、大阪におけるMSMを対象にした予防啓発活動がMSMの受検に関する行動に影響を及ぼしている可能性が示された。

F. 発表論文等

国内学会発表

- 1) 岳中美江, 榎本てる子, 岡本学, 土居加寿子, 松浦基夫, 山中京子, 藤山佳秀, 市川誠一 : 大阪・土曜日常設HIV検査事業における受検者の動向 (2006), 第21回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007年, 広島
- 2) 岳中美江, 松浦基夫, 榎本てる子, 土居加寿子, 山中京子, 岡本学, 藤山佳秀, 市川誠一 : 大阪・土曜日常設HIV検査事業における陽性結果受取から医療機関受診までの期間, 第21回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007年, 広島
- 3) 松浦基夫, 岳中美江, 岡本学, 土居加寿子, 榎本てる子, 山中京子, 藤山佳秀, 市川誠一 : 大阪・土曜日常設HIV検査事業における「結果お知らせ」担当者に対する研修体制, 第21回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007年, 広島
- 4) 山中京子, 榎本てる子, 土居加寿子, 岳中美江, 岡本学, 松浦基夫, 青木理恵子 : 大阪・土曜日常設HIV抗体検査が実施する陽性結果受取時カウンセリングに関する検討—専門カウンセラーが意識する支援視点の分析よりー, 第21回日本エイズ学会学術集会・総会, 2007年, 広島

別表1 大阪土曜日常設検査における受検者に関する概要(MSMとMSM以外別)

	MSM(n=373)			MSM以外(n=1507)		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
年齢階級						
15-19歳	13	(3.5)	41	(2.7)	54	(2.9)
20-24歳	62	(16.6)	225	(14.9)	287	(15.3)
25-29歳	82	(22.0)	403	(26.7)	485	(25.8)
30-34歳	69	(18.5)	353	(23.4)	422	(22.4)
35-39歳	60	(16.1)	181	(12.0)	241	(12.8)
40-44歳	31	(8.3)	75	(5.0)	106	(5.6)
45-49歳	13	(3.5)	60	(4.0)	73	(3.9)
50-54歳	3	(0.8)	29	(1.9)	32	(1.7)
55-59歳	9	(2.4)	27	(1.8)	36	(1.9)
60歳以上	6	(1.6)	11	(0.7)	17	(0.9)
無回答	25	(6.7)	102	(6.8)	127	(6.8)
居住地						
大阪	254	(68.1)	1128	(74.9)	1382	(73.5)
兵庫	63	(16.9)	221	(14.7)	284	(15.1)
京都	27	(7.2)	52	(3.5)	79	(4.2)
奈良	8	(2.1)	44	(2.9)	52	(2.8)
滋賀	10	(2.7)	16	(1.1)	26	(1.4)
和歌山	2	(0.5)	6	(0.4)	8	(0.4)
その他	9	(2.4)	21	(1.4)	30	(1.6)
無回答	0	(0.0)	19	(1.3)	19	(1.0)

・MSMは感染不安行為が同性間の性的接触と回答した男性

別表2 大阪土曜日常設検査における受検者に関する概要(MSMとMSM以外別)

	MSM(n=373)			MSM以外(n=1507)		
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
感染不安行為経験場所						
日本国内	349	(93.6)	1288	(85.5)	1637	(87.1)
国外	3	(0.8)	81	(5.4)	84	(4.5)
国内と国外	19	(5.1)	82	(5.4)	101	(5.4)
わからない	1	(0.3)	8	(0.5)	9	(0.5)
無回答	1	(0.3)	48	(3.2)	49	(2.6)
感染不安行為からの期間						
90日未満	206	(55.2)	627	(41.6)	833	(44.3)
1年以内	141	(37.8)	560	(37.2)	701	(37.3)
1年以上前	22	(5.9)	246	(16.3)	268	(14.3)
無回答	4	(1.1)	74	(4.9)	78	(4.1)
土曜検査を知った情報源(複数回答)						
インターネット	198	(53.1)	1033	(68.5)	1231	(65.5)
友人・恋人	85	(22.8)	240	(15.9)	325	(17.3)
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	15	(4.0)	70	(4.6)	85	(4.5)
ポスター・パンフ・広報誌	62	(16.6)	90	(6.0)	152	(8.1)
保健所・行政	19	(5.1)	76	(5.0)	95	(5.1)
病院	4	(1.1)	17	(1.1)	21	(1.1)
学校・職場	4	(1.1)	39	(2.6)	43	(2.3)
飲食店・飲み屋	8	(2.1)	0	(0.0)	8	(0.4)
受検動機(複数回答)						
自分にも感染の可能性	259	(69.4)	804	(53.4)	1063	(56.5)
体調に変化あり感染の不安	47	(12.6)	172	(11.4)	219	(11.6)
情報に触れ自分のことも心配	67	(18.0)	420	(27.9)	487	(25.9)
パートナーの感染がわかった	17	(4.6)	27	(1.8)	44	(2.3)
新しい恋人できた	49	(13.1)	178	(11.8)	227	(12.1)
恋人と一緒に	28	(7.5)	132	(8.8)	16	(8.5)
性感染症にかかった	7	(1.9)	71	(4.7)	78	(4.1)
ただ単に知りたい	55	(14.7)	221	(14.7)	276	(14.7)
定期的に受けている	75	(20.1)	98	(6.5)	173	(9.2)
過去のHIV検査受検経験						
これまで(生涯)	270	(72.4)	930	(61.7)	1033	(54.9)
過去1年間	173	(46.4)	303	(20.1)	476	(25.3)
過去1年間の受検場所(複数回答)						
病院	20	(11.6)	58	(19.1)	78	(16.4)
保健所	32	(18.5)	67	(22.1)	99	(20.8)
市内夜間検査	7	(4.0)	28	(9.2)	35	(7.4)
当土曜検査	117	(67.6)	149	(49.2)	266	(55.9)
その他	8	(4.6)	23	(7.6)	31	(6.5)
HIV関連相談経験(複数回答)						
経験なし	268	(71.8)	1301	(86.3)	1569	(83.5)
電話相談した	7	(1.9)	36	(2.4)	43	(2.3)
保健所に相談した	6	(1.6)	18	(1.2)	24	(1.3)
検査時に相談した	94	(25.2)	146	(9.7)	240	(12.8)
自身のHIV感染の可能性						
まったくないと思う	5	(1.3)	56	(3.7)	61	(3.2)
あまりないと思う	55	(14.7)	384	(25.5)	439	(23.4)
少し可能性があると思う	171	(45.8)	713	(47.3)	884	(47)
可能性があると思う	135	(36.2)	326	(21.6)	461	(24.5)
無回答	7	(1.9)	28	(1.9)	35	(1.9)

・MSMは感染不安行為が同性間の性的接触と回答した男性

別表3 大阪土曜日常設検査における受検者に関する概要(MSMとMSM以外別)
～過去6ヶ月間の性行動について

	MSM(n=373)		MSM以外(n=1507)		合計(n=1880)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
過去6ヶ月の性経験						
ある	327	(87.7)	1191	(79)	1518	(80.7)
過去6ヶ月の性交相手(複数回答)						
恋人・特定のパートナー	163	(49.8)	822	(69)	985	(64.9)
知人・友人とその場限りで	120	(36.7)	175	(14.7)	295	(19.4)
バー・クラブで会ったその場限りの人	94	(28.7)	73	(6.1)	167	(11)
ネット出会い系サイトで会ったその場限りの人	93	(28.4)	43	(3.6)	136	(9.0)
携帯出会い系サイトで会ったその場限りの人	47	(14.4)	29	(2.4)	76	(5.0)
風俗店等の従業員	21	(6.4)	379	(31.8)	400	(26.4)
風俗店等の客	10	(3.1)	47	(3.9)	57	(3.8)
その他	12	(3.7)	8	(0.7)	20	(1.3)
過去6ヶ月のコンドーム使用(オーラルセックス)						
毎回使った	29	(9.9)	76	(7.7)	105	(8.2)
使ったり使わなかったり	70	(23.8)	254	(25.9)	324	(25.4)
全く使わなかった	195	(66.3)	652	(66.4)	847	(66.4)
行為をしていない	17	-	94	-	111	-
無回答	16	-	115	-	131	-
過去6ヶ月のコンドーム使用(アナルセックス)						
毎回使った	128	(50.8)	39	(38.2)	167	(47.2)
使ったり使わなかったり	94	(37.3)	25	(24.5)	119	(33.6)
全く使わなかった	30	(11.9)	38	(37.3)	68	(19.2)
行為をしていない	58	-	925	-	983	-
無回答	17	-	164	-	181	-
過去6ヶ月のコンドーム使用(膣性交)						
毎回使った	34	(51.5)	341	(34.7)	375	(35.7)
使ったり使わなかったり	23	(34.8)	460	(46.8)	483	(46.0)
全く使わなかった	9	(13.6)	182	(18.5)	191	(18.2)
行為をしていない	163	-	99	-	262	-
無回答	98	-	109	-	207	-

・MSMは感染不安行為が同性間の性的接觸と回答した男性

・コンドーム使用の%は、「行為をしていない」「無回答」を省いた値を母数とした